

# 「静岡県小山町台風9号」 災害関連緊急砂防事業

—(財)全国建設研修センター「砂防等計画設計研修」現地研修記—

## ◆ 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課 ◆

### 1. はじめに

静岡県の北東部に位置する駿東郡小山町は、神奈川県、山梨県に接し、富士山を頂点とした三国山系と丹沢山地、箱根外輪山などに囲まれた自然豊かな町で、童話の「金太郎」生誕の地として知られています。

昨年9月8日の台風9号では、小山で1967年の観測開始以降最大となる時間雨量118mm、10時間で490mmという猛烈な豪雨となり、町内各地で土石流やがけ崩れが発生し、異常出水等による全壊・半壊31戸を含む150戸を越す家屋の被害、70箇所を超える護岸の決壊や橋梁の流出などの大規模な災害となりました。

町内で発生した39件の土砂災害のうち、規模が大きく次期出水等により被害が拡大するおそれのある奥の沢川等の4溪流で、災害関連緊急砂防事業が採択され、緊急的に5基の砂防堰堤の整備を約916百万円で進めております。

本稿では、6月23日に災害関連緊急砂防事業の「奥の沢川」と「上野川」の工事現場で実施した(財)全国建設研修センター（東京都小平市）の現地研修会について報告するものです。

### 2. 現地研修

(財)全国建設研修センター主催の「砂防等計画設計研修」は、国や都道府県、コンサルタント等の担当者を対象に、最新の砂防関係事業の理論、設計手法等の専門知識を得る5日間の研修であり、



本年度は全国から21名の砂防技術者の参加がありました。

「奥の沢川」と「上野川」は、大規模な土石流

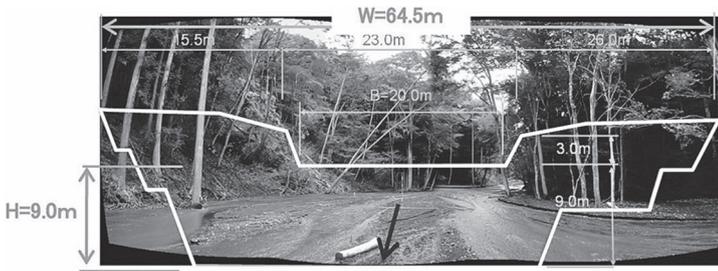


写真-1 「奥の沢川」堰堤計画位置のイメージ



写真-2 町道橋の流木による埋塞

の発生により、住宅半壊3戸、床上浸水1戸、床下浸水2戸、町道が2日間にわたり通行止めになる等の被害が発生し、溪流に堆積した不安定土砂や流木が著しく、次期出水等による再度災害が懸念されました。現地の調査の結果、山腹の崩壊が著しい上流域を治山事業で対応し、保全対象の直上流において不安定土砂や流木を捕捉する砂防堰堤の新設、既設堰堤の嵩上げを実施するものです。

研修では、展示したパネルや工事の実施状況を見学してもらうとともに、主に次の点について、

説明を行いました。

- ・土砂災害報告（第1報）から現地調査について
- ・砂防基本計画の立案から事前協議、本申請について
- ・本省協議資料の作成の留意点について
- ・新工法やコスト縮減、現場管理等の配慮について

研修生からは「工法選定のポイントは?」「新工法の積算歩掛は?」「内部材の配合試験は?」などの質問があり、活発な意見交換が行われま



写真-3 パネル展示による説明



写真-4 「奥の沢川」の現地説明



写真-5 内部材の混合作業の説明

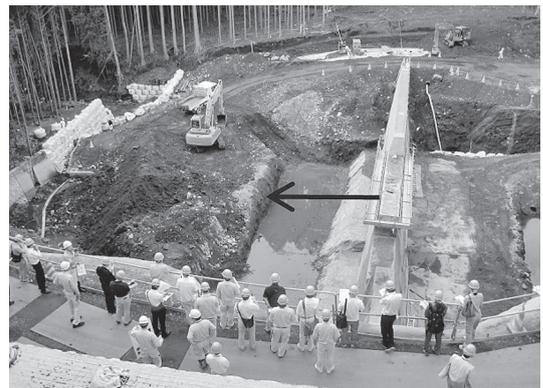


写真-6 「上野川」の現地説明



写真-7 小山町自主防災会の表彰



写真-8 小山町の防災訓練

した。

また、小山町は、過去に大きな災害を経験したことから、地域をあげて防災訓練を実施するなど、特に防災意識の高い町であります。

災害発生の当日は、台風の襲来により、静岡県地方気象台と県砂防課が10時35分に土砂災害警戒情報を発表しました。その後、小山町は11時7分に災害対策本部を設置するとともに13時40分以降5つの地区に避難勧告を発令しました。地域の自主防災会や消防団等が避難誘導や支援活動を行い、関係住民が迅速に避難することができ、全壊・半壊31戸におよぶ甚大な住宅被害が生じたものの、幸いにも人的被害はありませんでした。これにより、小山町の自主防災会連合会は、平成23年度土砂災害防止功労者国土交通大臣表彰に選定され、6月24日に関係者への表彰式が行われました。

本研修では、「土砂災害から生命を守る」ためには、ハード整備の着実な推進とともに市町によ

る警戒避難体制の整備を進めるソフト対策の重要性についても説明を行いました。

### 3. おわりに

1時間程度の現地研修でしたが、若手の砂防技術者のみなさんからは、「実際の土砂災害現場を見学して実感がわいた。貴重な経験となった」などの御意見が寄せられました。本研修に参加されたみなさんが各職場に戻られ、一層ご活躍されることをお祈りいたします。

最後に、小山町内の災害関係の多くの現場が最盛期を迎えておりますが、3月15日に静岡県東部で震度6強の大地震が発生し、地盤の緩みにより少ない降雨でも土砂災害の発生が懸念されることから、早期の完成を目指すとともに、現場の安全確保を図るよう取り組んでまいります。